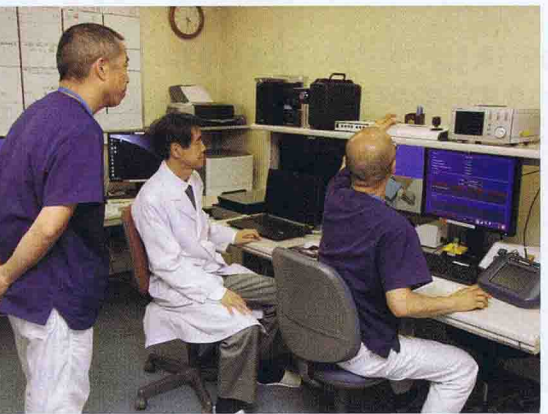


従来、日本において保険が適用されるサイバーナイフ治療は、頭蓋内腫瘍、耳鼻咽喉科・口腔外科での治療対象域にある腫瘍、そして頸椎腫瘍に対してのみであったが、今回導入のG4では肺がん、肝がんにも適応（細かい制約はあり）が広がった。津田理事長は、今後他の臓器がん（前立腺がん、膀胱

る。しかし、同クリニックが導入したG4では、患者の呼吸などによるわずかな体の動きに対して、追尾装置を使って照射位置を即座に変更することができるため、正常組織への照射を防ぐことができる。「定位放射線治療は始まってからまだ日が浅い治療法なので、近年になってようやく長期経過の結果が出てきていますが、照射直後には異変がなかったにもかかわらず、5年後、10年後に放射線を照射した患部周辺の組織に壊死や嚢胞が出るケースがあることが報告されています。当院では、およそ10年前からサイバーナイフ治療に携わっていますが、その長期経過を見ても、サイバーナイフにおいてはこのような副作用が少ないことがわかっています」

「当院でとりわけ力を入れていのがりハビリティです。入院中の適切なリハビリで自立した生活が可能になって帰宅されても、リハビリを怠ればすぐに元の状態に戻ってしまいます。病院内のリハビリだけではなく、訪問リハビリも積極的に取り組んでいます。今後も地域に根差した医療と高度先進医療の両方に取り組むことで、予防、治

がんに対してサイバーナイフ治療が適用されることに期待を寄せているという。「肺がんの早期であれば、手術をすることなく治療が可能であり、手術に匹敵する治療効果がみられます。そして、患者さんのQOL（生活の質）の向上にも寄与できると考えています」
トータルでケアできる病院を目指す
そして、蘇生会総合病院のもう一つの柱ともいえるのが、地域医療だ。津田理事長自ら、現在でも訪問診療で地域を回っているという。老人保健施設を2施設、居宅介護支援センター、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションを併設し、地域医療に根差した在宅部門にも力を注いでいる。



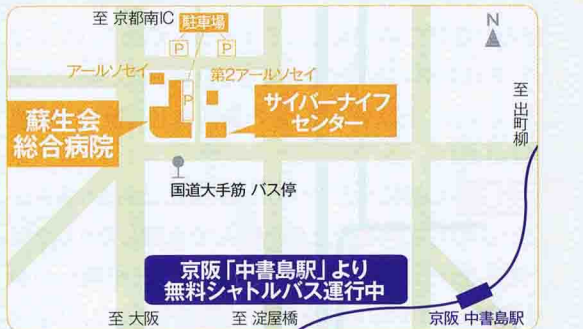
操作室で画面を見ながらサイバーナイフの治療計画にのっとり治療を行う



着脱可能なプラスチックマスク

医療法人社団 蘇生会
蘇生会クリニック サイバーナイフセンター
〒612-8248 京都府京都市伏見区下鳥羽上三栢町126
TEL・FAX 075-621-0026 (サイバーナイフセンター直通電話) <http://www.boseikai.or.jp/knife>
受付時間：9:00～12:00 / 14:00～17:00 (診察、治療は完全予約制。受付時間は月～土曜日の8:30～17:00)
休診日：日・祝・土曜午後

切らないがん治療



サイバーナイフ治療で 高度先進医療に取り組み 訪問診療を通じて 地域医療を支える

情熱医療
プロシカル
ドクター
Professional Doctor

切らずに治すがん治療!!
サイバーナイフによる
定位放射線治療

京都市の南西部に位置する伏見区に開業して61年を迎え、先進の高度医療と訪問診療や訪問リハビリを核とした地域医療を兼ね備えて対応しているのが医療法人社団蘇生会蘇生会総合病院だ。同院の高度先進医療への取り組みとして注目を集めているのが、頭頸部及び体幹部の腫瘍に対し、メスで切らずにがん組織を死滅させる治療法として注目を集めている「サイバーナイフ治療」だ。この治療を行う「蘇生会クリニックサイバーナイフセンター」は2002年に設立され、脳腫瘍などに苦しむ患者の治療にあたってきた。2013年5月からは、日本で9台目のサイバーナイフラジオサージェリーシステム(G4)を新たに導入して体幹部定位放射線治療をも開始した。

「サイバーナイフ治療は定位放射線治療の一種で、コンピュータ制御されたロボットアームに放射線照射装置を装着した機器を用いて腫瘍にだけ放射線を照射する治療法です」と語るのは、長年、

サイバーナイフ治療の研究、治療に携わってきた医療法人社団蘇生会理事長であり蘇生会クリニックサイバーナイフセンターの津田永明院長だ。

「外科的手術で脳腫瘍を切除する場合、患者さんに大きな負担がかかるため、体力的な問題や患部の位置などによっては手術が行えない事例もあります。しかし、サイバーナイフ治療の場合、開頭が不要なだけでなく、通常は麻酔も使用せず、治療中に患者さんが受ける身体的苦痛はほとんどありません。従来のガンナイフ治療では頭蓋骨に直接ネジで金属フレームを固定する必要があり患者さんに大きな負担となっていました。着脱可能なプラスチックマスク

クにより痛みのない固定で短時間寝ているだけの治療が可能となりました。そのため従来の外科手術では対応できなかった部位の腫瘍や、合併症の有無などで手術による対応が困難であった高齢者であっても治療を受けることが可能になりました。腫瘍の大きさによっても、多くても3～5回程度の分割照射を毎日30～40分程度行うだけで入院の必要もありません。当院でも多くの患者さんが入院することなく、通院で治療を受けられています」

体幹部に放射線を照射する場合、患者の体がわずかに動いただけでも、腫瘍周辺の正常な細胞に照射が及んでしまう危険性があ



津田 永明 つだ えいめい
院長

1981年 医学博士(京都大学)
日本脳神経外科学会認定
脳神経外科専門医

1985年 蘇生会病院院長

1991年 蘇生会総合病院 理事長

2003年 医療法人社団蘇生会
蘇生会クリニック
サイバーナイフセンター 院長(兼任)



関連施設
医療法人社団 蘇生会 **蘇生会総合病院**
〒612-8473
京都府京都市伏見区下鳥羽広長町101
TEL 075-621-3101
FAX 075-612-5790
<http://www.boseikai.or.jp>
受付時間：9:00～12:00
14:00～19:00
休診日：日・祝